

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

おはようございます。それでは、私の一般質問を始めさせていただきます。

今回私は、三つのことを質問通告いたしております。最初でありますので、具体的にどういふことをしようかということであるいろいろ考えていったわけでありまして、基本的な部分について新武雄市長も誕生したことでありますし、そういう武雄市政の基本姿勢の部分についてぜひお尋ねをしたいなということで、今回は質問を組み立てております。

今、日本というのは本当に確かなものが何一つないという、そういう激動の時代であります。きのうの勝ち組がきょうは、一夜明けると負け組になっているという、そういう状況でありまして、ライブドア等は昨年までは非常にもはやされておりまして、つい最近では村上ファンドであります。新聞、経済誌その他では非常に持ち上げられていたんですが、今では手が後ろに回っているかどうかという、そういう瀬戸際に追い込まれております。

地方自治体もそういう意味では例外ではないだろうというふうに思っております。10年が1日になるという、そういう10年間で1日に圧縮される、そういう時代ではないかというふうに思っております。そういう面では、地方行政というのも大変スピード感を求められますし、ある面では決断を早くしなければならないというふうに思っているわけでありまして。今までの地方自治の観点でこれからの地方自治を語ることはできないだろうし、運営もできないというふうに思っております。物すごいスピードが必要ではないかというふうに思っております。今まで常識とされたものが既に常識ではないという、そういう時代だ。その一つの例が、私は樋渡啓祐ではないかというふうに思っております。

去年の12月末に武雄温泉駅におりられた。そこで市長選挙を望むという決意を持って帰られてきたわけでありまして、そのときに武雄市民が本当にだれが知っていたのかというふうに思うわけでありまして。それからわずか6カ月後、今は市長としてこの武雄市5万3,000人の市民のトップとしてこれからの行政を担われようとしているわけでありまして。

私は、これを考えたときに、昭和の時代であったらこういうことが起きているだろうかというふうに思うわけでありまして。多分あり得なかったというふうに思うんですね。全く無名の若い青年が「私が市長をやりますから、ぜひ市民の皆さん御支援をお願いします」というふうに訴えたとして、果たしてそれが通用したのかというふうに思うわけでありまして、それは一つの今の時代という、日本の時代という中で初めて可能になった、ある面ではその可能性が出てきたんじゃないかというふうに思っています。

そういう面で、樋渡啓祐市長が持っているスピード、決断力、先見性、そして人間性はこれからの武雄市に大きく貢献をするということを期待しているところであります。

一昨日、ワールドカップがありまして、日本戦を見ておりました。大変歯がゆい思いをしたというのは、私も一緒であります。そのとき思ったのは、やっぱり本気でシュートを打っていないとなかなか無理なんだということがわかったような気がします。ほかのチーム、

ドイツとかいろんなチームを見ていますと、ペナルティーエリア外からどんどんシュートを打っている。無理な体勢だろうが何だろうが、とにかくゴールポストが見えたら打つという、そういう姿勢でありました。日本は黄金の中盤ということでパスワークを重視した、そういう戦術をとったというふうにテレビ等では放映してありますけれども、それがやっぱり無理があった。やっぱりどんな姿勢でもいいからとにかくどんどんシュートを打たない限りは、ゴールポストをめがけてシュートを打たない限りはやっぱり点数は入らない。点が入らなければ負けるということでもあります。ぜひ樋渡市長は、私はどんな無理な姿勢でもいいからどんどんシュートを打っていただきたいと思います。

10本打てば1本、100本打っても1本、それは1分の1というのも大変すばらしいことではありますが、やっぱり今の時代は、先ほど答弁があったように、企業誘致一つにとってもいろんなところも既に体制を整えてきている。佐賀県と武雄市はバスに乗りおけている。そういう中では大変不利な状況ではありますが、どんどんシュートを打っていただきたい。それが多分新武雄市の樋渡市政を誕生させた市民の願いではなからうかというふうに思っております。

そういうことで、質問をさせていただきますが、まず1点目、新幹線問題であります。

西九州ルートの問題であります。これ御承知のとおり、鹿島市長が同意をしないということでもあります。したがって、これが原因で佐賀県も身動きがとれなくなっております。つい先日の鹿島市の6月の定例市議会の所信表明でも、鹿島市長は政治生命をかけても同意しないという、何としても新幹線については同意をしないということを表明されております。

一方、この武雄市であります。新幹線誘致ということで、新幹線の促進ということでしてまいりました。樋渡市長も新幹線の存在価値というのは十分認められておりますし、また、その実現のために努力をしていただけるというふうに思っておるわけでもあります。

ただ、私も武雄市民の方にいろんなアンケートとか意見を聞いておりますと、実は残念なことではありますが、この武雄市においてもまだ新幹線の位置づけ、必要性を含めて十分理解をされていないということがあるんじゃないかというふうに思うわけでもあります。ですから、今後やはりこの新幹線のレールを引いていくために、武雄市の一定の働きをしなければなりませんし、そのためには市民の皆さんの十分な理解と同意、合意が必要じゃないかというふうに思っているわけでもあります。

ですから、この点について、今後武雄市、樋渡市長はどのような方向性を持って進んでいけるのか、この点についてお尋ねをしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

西九州新幹線は、西九州全体にとって必要不可欠なものであると認識をしております。その上で、きょうは余り語られていないことを少し語りたいというふうに思っております。

と申しますのも、キーワードは中国であります。中国は国を挙げて100%から200%増の観光客が今ふえている。じゃあその中国の方がどこに行っているか。これはすなわち富士山、あるいは秋葉原、もう一つが新幹線に乗りたい、見たい。したがって、東京から京都に行く中国の観光客はいっぱいおんさあです。こういった人たちは京都のわびさびじゃなくて、この新幹線に乗りたい。そのために乗っておられる。これは結構多数おられます。そういった意味で、私はこのように考えております。今武雄市でこれを切る。私はこれは歴史に対して冒瀆だというふうに思っております。と申しますのも、中国を見据えた場合、長崎まで通ることによって上海までは飛行機、あるいは客船がつながっております。私はこれをアジアのシルクロード、現代のシルクロードととらえて、そういった意味からでも、もう一回住民の皆さん、あるいは県民の皆さん、国民の皆さんにお話しすべき問題であると深く認識をしております。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

私も全くそのおりだというふうに思います。これはちょっと、既にグローバル化という言葉がありまして、しておりますが、地方自治体についてはあんまり関係がないなというふうに思っておりましたら、つい先日、ある資料を見ておりましたら、もう地方自治体といえどもアジアを無視しては成り立っていかないんだということが述べてありました。いわゆる経済を含めて、政治も含めてなんです、きわめて広域化していて、今までの常識でははかれない部分がやっぱりそこに出てきている。そういう面でアジアのシルクロードというネーミングも大変すばらしいものがあるというふうに思いますし、また、そういうことがこれからの20年後、30年後、歴史の話をされました。歴史的な部分として30年後から見た今の武雄市、40年後から見た今の武雄市を考えていった場合、どうしてもやっぱり将来的な展望のためには必要であるというふうに私自身も思っております。ぜひ武雄市民が、皆さんが「うん、頑張ろうね」「新幹線をぜひ実現しようね」という、そういう合意形成ができるよう行政当局もぜひ努力をしていただきたいというふうに思っております。

また私も、地元の限られた範囲でありますけれども、地元を中心にこの新幹線問題、具体的な中身を含めているんな説明会、あるいは意見を聞く場を設けて、ぜひ認識を広げていきたいというふうに思っております。

続きまして、福岡にアンテナショップをとということであります。

御承知のとおり、いろんな意味で武雄市外の情報拠点をどうやってつくるのかというのは必要だろうというふうに思います。従来の地方行政というのは、その域内を対象にして、需

要、情報、その他を考えていけばよかったわけでありませけれども、先ほどの企業誘致の問題だけではなくて、いろんな意味で、やはり武雄市からどういう情報を出すのか、日本あるいはアジアからどういう情報を取り入れて、それをどう武雄市で加工して、また発信していくのかという、そういう循環というか、サイクルというのがやっぱり必要であるというふうに思うわけでありませ。

そういう面で、情報拠点、あるいは情報というのは単に知的な部分だけではなくて、武雄の特産物であるとか、そういう部分を含めてでありますけれども、そういうものをどうやってしていくのかということがやっぱり必要なことになる。そういう場合はやっぱり拠点というのがどうしても武雄市外に必要なだ。前の旧武雄市の議会のときでも言いましたけれども、本店があれば当然支店もあれば出張所も営業所もある。そういうのが必要ではないかというふうに思っております。そういう面で、一つの例としてアンテナショップということを私は言っておたわけでありませ。これについてどのように考えるのか、せっかくでありますので、副市長が2人今度新しく誕生いたしましたので、そういう面では、市長というよりも、副市長を含めて情報発信ということになると大田さんの方ですかね、大体の考えをぜひお聞かせいただければと思ひませ。

議長（杉原豊喜君）

大田副市長

大田副市長〔登壇〕

お答えいたします。

先ほど議員提案のアンテナショップということでございませけれども、結論といたしましては、市の財政状況等から困難と考えておりますけれども、費用対効果を考えれば、どういふ方法が一番情報発信、情報取得に効果的なのかを考えませと、今県でも福岡市に拠点を設けてやっておりますが、県ともいろいろな効果について相談をしたいと思っておりますけれども、拠点を設けずにいかにして情報発信をするのか、情報を取得するのか、それが一番議論すべきことだと思っております。

それから、先ほど武雄だけではなくということをおわれませけれども、市長が言うように、今からの観光戦略、情報発信は広域的に取り組むべき課題だと思っております。既に市長の方から唐津市や佐世保の方、それぞれ関係ある団体に広域的に取り組みませんかというよふな話もされていふようございませ。それを受けまして、観光、それから情報発信、それぞれ広域的に取り組んでまいるべき時代じゃないかと考えております。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

実は、私自身はアンテナショップをぜひ何としてもやれというふうには思っていないんで

す。というのは、アンテナショップということで示される武雄の情報を発信していこうというその姿勢をぜひ、具体的な形についてはいろんな意味でなるべく金がかからん、なるべくというか、効果的に使える金の使い方をされればそれでいいんじゃないかなろうかというふうに思います。

大田副市長も昨日の答弁では、ほかの自治体にないいアイデアをぜひ出していきたいというふうにおっしゃってありました。そういう面では、ぜひいろんな意味で情報発信をどうやってしていくのか、だれにどうやって、どのような形でしていくのかということをぜひ検討していただきたい、研究をしていただきたいというふうに思います。

市長は、そういう面ではだれよりも進んでいるというふうに思います。毎日私もブログとこのを見させていただいております。その前はホームページ、高槻市のホームページをほぼ毎日見させていただいておりました。非常に経済的な効果というのは非常に大きいものがあるというふうに思うわけであります。市長としては何かそういう具体的なアイデア、考え、それから、これからについてこういうふうなことを考えたいなという、取り組み直したいという部分があれば、ぜひここで示していただければというふうに思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほど議員と副市長の答弁のやりとりを聞きながら、一つひらめきました。と申しますのも、私は東京、大阪におったときにどうやって佐賀の情報に触れていたかということ、百貨店、デパートの大九州物産展、これがまた佐賀の人が出しんされんとですね、奥ゆかしかけんがですね。ですので、こういった毎年毎年九州の物産展とかなると、物すごい人が押し寄せてくるわけです。北海道に次ぐ九州は物産の宝庫だと。まずそういったところに佐賀が一定の負担でもして、私は果敢にチャレンジしていくべき問題だというふうに思っています。その上で、今全国でキーワードになっている言葉が「がばい」です。「がばいばあちゃん」の「がばい」がどうも全国の人からすると佐賀に結びつけられている。したがって、私は先ほど副市長の答弁であったように、武雄と言ってもびんときんされんけんですね、きのう答弁したように、カンボジアと言う人もおんさっけんですね。この佐賀とがばいということで、例えば、沖縄がわしたショップということで今全国展開をされています。沖縄のわしたショップ、あるいは広島です。広島は新宿駅の一丁目立つところに広島ショップということで置かれています。この佐賀イコールがばいがもう少しブランドとして定着するようになれば、広域的な観点から武雄がそこに入り込んでいき、そこに私はアンテナショップの活路は見出せるんじゃないかというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

広域的という、佐賀ということでありました。実は私もいろんな意味で先日福岡市にありますが県の情報センターというところに行きました。イムズというところの7階にありまして、どういふもんだらうかなということで行きました。久しぶり博多に出ましたら、やっぱり多いですね。人間が山のようにいます。私は本当にそういう面では、若い人たちがいっぱいいるところには最近余り出ていないもんですからびっくりします。そういうところにやっぱり佐賀県がある。

だから、問題はやっぱりそういう人たちにどうやってこの武雄をアピールしたらいいんだらうかということで、駅で1時間ぐらい座って通る人を見ながら、この人たちをどうやったら武雄に顔を向けさせることができるんだらうかということで一生懸命考えましたけれども、なかなかいいアイデアが出てこない。アイデアの問題だけではないというふうに思うんですけども、やっぱりそういうことを広域的でもやる、がばいという話でありまして、私もやっぱりそのとおりだと思います。

資本主義でありますので、物事はお金が必ずつきものであります。アイデアはうちが出すから隣の唐津その他周辺、佐世保を含めて、お金はあなたたちが出してくんしゃいということも逆にいいのではないかというふうに思います。

ですから、一つはやっぱりアイデアですね。考え方、発想、そのことをやっぱり武雄はお金がない分はそこでカバーをしていただきたいというふうに思っております。

それでは、3点目の人事の問題、職員の育成の問題であります。

昔からの言葉で、物事をなすときにはお金のあつはあつを出せ、力のあるあつは力を出せというんですね。何もなつは汗を出せという話があつておりました。そういう面では、ちょっと正確かどうかわかりませんが、そういうことを私も聞いた記憶があります。ですから、何もなつは汗と知恵を出せというこの二つしかないと思うんですね。

そういう面では汗と知恵と具体的にあるのは何かということ、やっぱり人材だと思うんですね。やっぱり市の職員、現実にこの市役所で働いている皆さんがいかに100%の力を出せるのか、そのことが武雄市の再生の一番大きなかぎだというふうに思っております。

公務員制度でありますのでいろんな意味で制限があります、公務員法とかですね。普通の民間の会社ではできないというか、そういう規制というか、制限がある部分があります。

実は私の妻はN T Tで働いておりました、今も働いておりましたが、4年ほど前にこういうことになりました。佐賀は人間が余っているから、業務の関係ですね。私の妻は名古屋か大阪か和歌山、この三つでしたかね、に出向で1年半行ってくれという話であります。それを聞いたとき、私は「ああ、おまえちょっと偉くなるのかい」と言うたが、「いんにゃ」という話。そのまま偉くもならない。ただ人間として1年半、ローテーションで行くという話でありました。女性も50過ぎている、50前でしたかね、49歳の女性をいきなりそういうとこ

るにほんと「あなた行きなさい。行けなかったらもう」という話があるんですね。僕もびっくりしましたけれども、これがやっぱり現実の民間のある面のすごさだなというふうに思っております。そういう面で、妻はやめることなく、意地でも頑張っただいということ送りで出して、結構気楽に独身生活を楽しんでおるといふこともあったようでありましてけれども、そういうことでもあります。

ですから、今の武雄市の人事のあり方も含めて、やっぱりいろんな意味でいかに力を出すかという、そういうふうにし組みを変えていくことも必要ではないかというふうに思っています。私は、そういうふうには思っておりましたら、副市長制が出されました。私もこの点については、ああ、樋渡市長というのはまずそこから手をつけていくんだなというふうに思っておりました。今後人事のあり方を含めて機構のあり方は、人事だけじゃなくて、機構のあり方もそうだとおもうに思っ、今後変わっていくというふうには思っておるわけでありまして、ここでせつかくでありますので、内部的な部分の担当である副市長の方からこの人事のあり方、あるいは機構のあり方についてはどういふお考えをお持ちか、ぜひお聞きをしたいと思ひます。長い間行政に携わってまいりましたので、いろいろ、自分がこういふことだったらこういふふうに変えていきたいとか、こういふふうなことを注意したいといふのがあるかというふうには思ひますので、副市長の方からその辺の答弁をお願いいたします。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

お答えいたします。

私は、2月末で一応市役所を退職しまして、5月また就任しました。この3カ月間を過ぎまして市役所に入ってきたところ、非常に市役所のムードが変わっておりました。私も長い期間勤めておりましたけど、こんなにムードが変わったのは初めての体験だと思ひます。それは何かといひますと、職員の仕事に対する意欲といふのが大幅に変わったんじゃないかなと、意識が変わったんじゃないかなといふ気がいたしております。特に若い市長が誕生したと、市長に負けたくない、また、1市2町合併したと。職員間で競争が芽生えてきたと、こういふ面で大変喜んでおります。こういふことは必ずしも今後衰退することなく継続していくといふことを期待しております。

そういう中で、御質問のありましたような人事の配置、機構の改革、そういうものにつきましても、やっぱり今までと同様優秀な人材を登用することはもちろんでありますけど、さらに内容を深めていって人事考課等を採用しながら進めていきたいと思ひしております。また、組織につきましてもできるだけ早い機会にもう一回見直しをしていきたいといふふうには考えているところでございます。

議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

改革があるときには必ず抵抗もあるわけであります。特に今までの職員の処遇の部分についてはいろんな意味で、ある面では既得権と言ったらおかしいですが、そういうところもあるろうかというふうに思うわけであります。ですから、なかなか温かいふるからお湯がどんどんどんどん冷めてきているにもかかわらず、そこから出るというのは勇気の要ることであります。ですから、その勇気を持って、ぜひ今後武雄の内部の改革をお願いしたいというふうに思うわけであります。

質問項目については3項目しか準備しておりませんでしたけれども、この具体的な問題については今後ぜひその都度質問をしていきたいというふうに考えております。

執行部と議会お互いに切磋琢磨をして今後とも進めていきたいということを申しまして、私の一般質問を終わります。